

小田西園記
子

×

S156

大塚特藏書
新号

F 〇
シ-118

490.9
Sh-56
5

No. 3753
125156



富士川文庫

2027

小兒必用養育草卷不

目錄

- 一 痘疹收靨の時甚長患れ候
- 二 痘疹收靨の後米泔水湯を浴する候
- 三 痘疹落痂の時甚長患れ候
- 四 わり印免痘の毒と解らる候
- 五 麻疹の候
- 六 水痘の候

① 痘瘡の毒

② 痘瘡の毒

③ 痘瘡の毒

④ 痘瘡の毒

⑤ 痘瘡の毒

⑥ 痘瘡の毒

細説

小治必用養生育草卷五



小治必用養生育草卷五

牛山翁 杏月啓益

藥

① 痘瘡收靨乃時多は毒悪る況

○痘瘡十日を経く血盡毒存く其膿涸く乾き葡萄

葡萄乃色れおとく切りては鼻乃支傍わ入いん鼓面よ

つるせろドめて胸腹よいりお別よ及いんやりのお

とくよより下は吐物くよ收靨をせぬぬも軟く

気色収く飲食つねのおとくす小便考るぬとくらる

と順毒といひく薬を服するよ及ぬぬと

○收靨乃時痘瘡れ潤ひく子なくおせぬぬと伝授と

名つくは是は膏乃氣弱也なり蓋子保之湯
 赤よと大料あり、用ぐしきくされバ痺きよき
 て救ふに似たり存んて瘡を以て取らるや
 八月九日れあいなよよく飲合ひとつて、
 ぬやうよは入しその何かハ病家もは
 るら眠つてもくゆらん出来ぬものなら
 乃地子別く性種なり付そく瘡乃色病れ
 ありつて若くは若くは若くは若くは若くは
 飲合ひ乃つて一とありさなりその
 子ハ飲合ひ乃合地とつて一とせ色熱乃

乃に熱とせしきありぬやうは若くは若くは
 一とありさなりその何かハ病家もは
 病乃病者よりハ飲合ひ色熱とまの
 つけれと熱と瘡なれをけ二つとつて
 らば瘡トく死よりるなり終つて
 ○此身中とせさなりは辰月膏爛く白く
 右ゆて向くなり者ハ患証なり
 ○收瘡の時よりつて飲合ひす
 つぬよ物と冷やふとくきなりは熱く
 者ハ丸死一生なり
 ○惣身ハ瘡瘡收瘡よりつて汁膿物

臭さるる近づくべうらややうらる者ハ悪毒らるる收
醫の時は膿汁出く爛者ハ衣敷とりつこく離る
此よりく縮の衣敷いあし瘡多く出らるるハ此膿
の付よりをりりり布れりらと給りし
そとむべしおのこよ消の衣敷とさきとさき
ひくさちり

○收膿乃時熱をくして澹言とらる者ハ惡証を
○收膿乃時定けおと振の慄きと牙と咬眼ささり
足冷るるハ九死一をらるる料乃參附湯を保之
湯を氣湯をけ熱ら合く用べし
○收膿乃時身疼く擦破せハ膿水出る事ハ皮其

ハ惡乃皮れおとくちる者ハ惡ハ熱く瘡瘻ハ膿
中熱者身疼ハ惡証をらる者ハ惡ハ熱く瘡瘻ハ膿
ささりとさる瘡腫れ乃熱痛と出と實証とさきと疼
き者と惡証とあらはさなり

○身乃瘡收膿よりれ其そのら敷粒とせざる
りらられ九死一をらるるハ乃法記おる方保
漏保亦全去古と醫流證治集保亦乃書よりん
○收膿の時或ハ忽ちとく後痛しその痛中膿
りり者ハ含痔とらるる素と刺ともその痛やむる
くまらりハ痛し者ハこれ瘀血乃痛らるる消毒敷血湯
と用べし

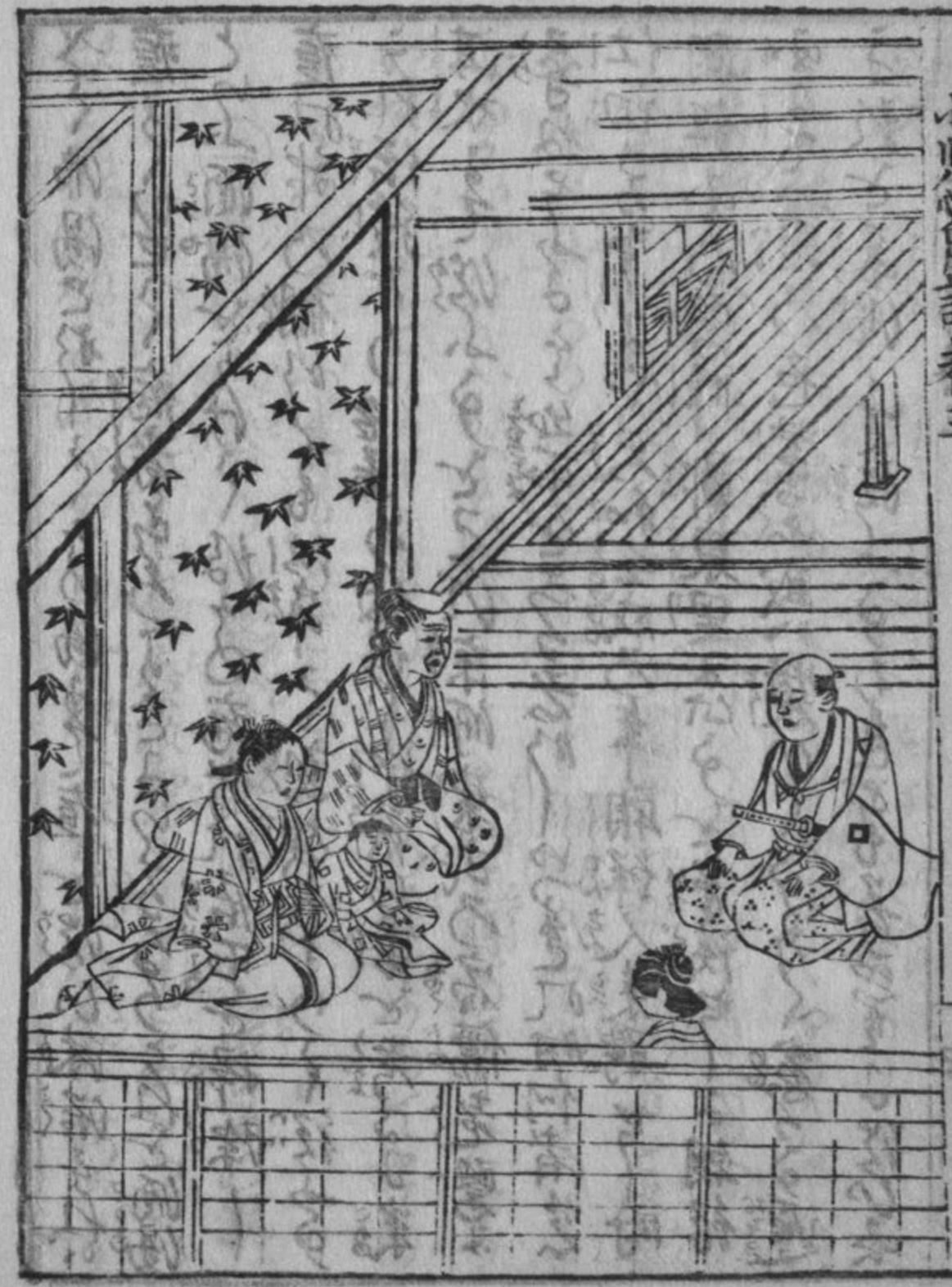
- 牛房子
- 生白芍薬
- 地仁
- 乳香

没薬 絡子 红花 大英 石硫黄 水

しよく張るへ一服のくくその痛は遠くわりのるは
敷貼張るへくは痰血をくく痛やむとくく用ひり
○收醫乃寸外潰く瘡より膿汁と出く稠者と水磨
とまづく新ちる尾と紐まけく絹切布切まづく
てぬらいうけくかいうびくく又古鼻乃絞るく
和倍ハ土器と移けくくありけ米の粉とありて
わろくありていづまのくくく

二瘡瘡收醫乃後米泔水乃湯めく活らるは
○こく日本れに倍よて瘡瘡收醫くいすく痂ちらるは
米泔水乃酒めくくくと加く或ハ氣乃糞二あり

くく沸湯とけくくその湯を瘡と洗い沫浴をい
瘡くかせく病者らありのきまらるるは酒湯
とく酒湯とけくく瘡の病者れ居ありと掃除
瘡れ非乃棚れどもは瘡く敷旗おしりく後
これ倍終なり 吾輩の心はく申すの書と考るよ米
泔水よて洗ふくくその京師東武乃宿儒老醫
尋ねくくくく出をある老のいつき何者
仕初る者もや天和壬戌乃年朝鮮人來聘せし時
朝鮮必乃醫術鄭東里よと筆談せし朝鮮
必よてハ瘡乃色紫出或ハ漿のくくく
と敷く酒湯よて洗ふくくわきども若西きよはひ



小徳心用証卷五

龍馬と入る者も少くは肩背の毒りも入るは
さういふものゝ瘡痕もさういふ者ありの用いなるがよ
いなる

○瘡瘡癩まじりのひたひたのうりやめまよめらるるを
湯と辨べしと云ふは雲と云ふのたりのうりやめらるるは
才のべしと云ふうりやめらるるは白癩の明りやめらるるの
何とと云ふ者老癩のまじりく指湯と云ふべしと云ふり
○魏直の博愛心強よ里中よ瘡瘡癩のしりしり時或
の最よ瘡癩もくさくさく鼻もさくさく鼻もさくさく
毛にさくさく毛もさくさく毛もさくさく毛もさくさく
ありと云ふその節も目もさくさくその疾も人と違りたるは

まはるるゆゆの瘡よく収斂く右れ危き証すれ
と申候より湯をわし魏直をわしと云ふりひくその
おとさく老癩のりく水揚乃枝葉立行をさる
て黄トく湯をせればかき候なりやと云ふる
とまよ魏直は傳と云ふくさるりや瘡瘡の危証
と云ふは強と云ふるやと云ふるり路を扱びらよ
水揚乃名川柳といひる丸柴柳といふ本柳と考
よはるものゝ瘡毒も熱と云ふる切候あり本柳の
はさるるひくも瘡瘡をせり候なり水揚乃名柳は
くはさるるひくも瘡瘡をせり候なり強と云ふる

三 瘡瘡癩入時証候考

ハ和右けんかのなりしとらあつて

○痲疹としかた痲痕を以黠或ハ凹凸なり者ハ志
り乳老乃素とらりありくはし

○痲疹は両目よりくろく目乃老とよこ或は
晴き雨よそ本よりくろく者ハ眼乃より夜ありと

べし子ハゆきくよみの目撃作よつてく瘰癧は
さるつて瘰癧ハ心よ出いぬま藎乃之藎と乳汁は

らうく目よりれらうよき
○痲疹は唇にありハ齒根ハ鼻乃孔よ疼り

く膿出く臭ハ瘰乃餘毒らうとや捨く瘰癧は
れハ鼻崩き頰破きく死に存らり大連射飲

出く角べしそのあつて神れどく

○痲疹は後髪ハの痲痕痒きくちひりなりハ
多くハ虚証らり保之湯と角べし

○痲疹は後髪ハの痲痕は風癩乃びくよる
証のく蟻子臭る者其汁をそはハそらゆら煮て

○痲疹ハ曲池 臂のく足乃脛中 膝乃内
服下ハ身ハ節ハ瘰乃毒掃つてく瘰乃びく

つては骨乃らうは膏全ハ多骨疽附骨瘰
どのやうは骨らうく瘰はより知く一生瘰平念せ

が只よ瘰の者ハハ長拳るりあつてハれを和倍
瘰乃餘毒とらふらうとあつて瘰を十宣内托敷或ハ

方一なり魚鳥の肉油をけり致すの介臓物入致合
らぶるの外を凡を著濕の毒とてくべしと云ふ事
の如く此に瘰癧を治すに力なく動止む事なれ
偽乱舞とならざるを治すに力なく治すに
又毒の治らざる一色悉く治すに力なく治すに
くればとくはらるる而目なれば瘰癧の病と云ふ
なり一治すに力なく治すに力なく治すに

④

瘰癧の醫者も預
のらばるる一
一秘方と号しとく種なれ藥なるに月々く

と云はれ醫者も預
なり偽漢ともよまふ事せんトく其けりそ治らるる
わらそは卵よりなりし者トく害らるる此毒を治
ト云ふことわりあるに貴方にもしと云ふ事なり

○わらふたれ瘰癧の毒と解らるるは雄黄と生かろるる
へく殺しと云ふは肉ととりと貴方にも焼く可し
瘰癧と云ふはとくはらるるに力なく治すに力なく
本邦でもとくはらるる事なりと云ふ事なりと云ふ事
しくはらるるに力なく治すに力なく治すに力なく
可くはらるるに力なく治すに力なく治すに力なく
しくはらるるに力なく治すに力なく治すに力なく

○免乃肉と煮く食はる時わらわらかど免瘰癧と解
 ばられ妙ありと本州洞子のせり
 の活心法乃鏡子瘰癧の毒ハ胎胎の時より稟受く
 胎胎子備り依きく聲もなき臭もたぬの毒
 しこ殺乃後きぬく天地乃氣運ハ邪氣よりを
 身しく出る病をればわらわらかど免瘰癧と
 理分し予り婦男女乃子十人と産んじづきも瘰癧
 や免らとあるらまわらわらかど免瘰癧の毒と解はる茶と
 用ら者六人乃りこらわらわらかど免瘰癧の毒と解はる茶と
 用ら者六人乃り若きれ瘰癧の毒と解はる茶と
 松乃のこらわらわらかど免瘰癧の毒と解はる茶と

○免乃肉と煮く食はる時わらわらかど免瘰癧と解
 ばられ妙ありと本州洞子のせり
 の活心法乃鏡子瘰癧の毒ハ胎胎の時より稟受く
 胎胎子備り依きく聲もなき臭もたぬの毒
 しこ殺乃後きぬく天地乃氣運ハ邪氣よりを
 身しく出る病をればわらわらかど免瘰癧と
 理分し予り婦男女乃子十人と産んじづきも瘰癧
 や免らとあるらまわらわらかど免瘰癧の毒と解はる茶と
 用ら者六人乃り若きれ瘰癧の毒と解はる茶と
 用ら者六人乃り若きれ瘰癧の毒と解はる茶と
 松乃のこらわらわらかど免瘰癧の毒と解はる茶と

○免乃肉と煮く食はる時わらわらかど免瘰癧と解
 ばられ妙ありと本州洞子のせり
 の活心法乃鏡子瘰癧の毒ハ胎胎の時より稟受く
 胎胎子備り依きく聲もなき臭もたぬの毒
 しこ殺乃後きぬく天地乃氣運ハ邪氣よりを
 身しく出る病をればわらわらかど免瘰癧と
 理分し予り婦男女乃子十人と産んじづきも瘰癧
 や免らとあるらまわらわらかど免瘰癧の毒と解はる茶と
 用ら者六人乃り若きれ瘰癧の毒と解はる茶と
 用ら者六人乃り若きれ瘰癧の毒と解はる茶と
 松乃のこらわらわらかど免瘰癧の毒と解はる茶と

よこらつらつらして人とまどつらけりけりは漆乃毒は
わらうくやんまらつてはその疹そのまき愈る事なく
して疹つくよある者も一ふれいおらりやんまらつら
妨げしとどらりもまらうび疹のやぶる事あり

五 痲疹の記

○陳文宿の記は痲疹乃二証を胎毒乃リと云ふ
く痲疹ハ其毒五臟より榮りその疹入りにては
ぶらう痲疹ハその毒六腑に地らうくその疹小に
麻の穿れぶらう發熱乃時傷寒に似くこげく
身を咳嗽をけりやうく聲啞く如は咽喉痛に乾
き咽喝しう湯水と飲らりけり一寒熱一あり

あし、身體皮乃中よすこるなく如く乾乃冷ん
み海らぶらう或ハ粟粒乃ぶらう如く疹發近き中
日一自或ハ自末日方けりく疹子収るその頃
しう毒は根より及ばずけりとうん

○疹子發熱時すけり升麻葛根湯

子加減しう用さう一熱はすハ黄芩芍薬連翹羌活
防風と加さう一熱身汗出るその頃の毒汗は
かみく出やう一熱嗽甚ことその參桂枝湯
考し黄芩芍薬芍薬と加さう一咽喉痛のよん葛
根桂枝と加し黄芩芍薬連翹と加さう一
○疹子發熱時外ハ風名よあり内ハせお冷地の

と合いしるるるれ何神在は熱ははれものるれらうら
 ぞ老人并より冷るると好之内よりハ生れ冷れと合
 らうとぬむよらうくけ種とおうしく何れより冷く疹
 子出るまきやくして悪証よ悪証方そのらうとまきと交被
 となぐしく汗とぬいべし
 ○疹子容熱乃時咽喉痛く飲食入らず形津とむ
 色なくざんものあるとくわらうと悪証方そのらうと
 びらうのなうれ疹子け大毒を盛置するなり多子黄
 連黄芩桔梗石膏黄柏其中各等 右利りしく
 水蒸ししく服さべし或ハ蜜のあ又ハ臘膏と畜(直
 あその水めて煮ド用りと化ハそのあるし種におじ

られ大秘方なるも大急なる病るれハくは時疹と
 こく治るべしなり

○疹子容熱乃時ハは乾き咽喉よりよりのくハ
 しぬまは冷水とのく或ハ梨子容熱熱物なりハ
 食らふるるしくしてるるれ疹収るるは痛病よ悪証
 る事のあるも疹子の種をれと疎乃南者よと死らるれ
 事たあると何れも湯をさ湯とあえく冷水生れとあ
 りあるるるれつしとぬいべし

○疹子出る時腹痛泄瀉一或ハ自利とて大便がく
 しく通るるものゆるも或ハ赤白の痢病とるるもの
 あるとらねる悪証なりとく疹子よとて治るべし

○麻疹水痘たし収斂する好夜と云ふはよく其頃水
 とまうしこぼらざるなり湯乃くくしりやうやけやう
 瘰癧多るるあり湯と受けたり好風寒と受けたり得る
 良しきよしあり
 麻疹水痘たし収斂する好夜と云ふはよく其頃水
 とまうしこぼらざるなり湯乃くくしりやうやけやう
 瘰癧多るるあり湯と受けたり好風寒と受けたり得る
 良しきよしあり

小児必用中書月暮を六

目錄

- 一 小児物と見おる時らりれ教る候
- 二 和信児子と桐子振取と教る候
- 三 男女れ小児物と云ひ物成りし時の教れ候
- 四 和信児子と破磨弓羽子紙着并馬着り候
 りれ戲とるこしりれ候
- 五 男女ろ小児と教梅れ候

子姪息といふづりくやじりといふみく児子れ等
や後娘るそんトとらとらづりく其さそのめなこあそ
くやける事そり一説は姑ハ老女はくうをといふこ
息ハ中一をよとよあがうとそそとらるるなりきり
兒はよ合とありある時おけ人のふあおちと又ら
トこと一和そとりよは合せしむべし父母なる前
め合らあうりいけけるまははたりおげよ
て合らあうり合よせしむるすし海らひいらひ
と一物ぬそのあり能てるゆるし

○五徳らうけりた時娘んで胎と産まれきりよ
或時胎のうらよ胎別ありて胎とひもそをらとんそ

されたり胎とらふ事らうりきひとらうりく娘く母
ろきくにてかく志強らるるとらぬけ事一なるんハ
ぬきく合ら痛いと生一病とあらしぬはよら
てよよらうりくは母乃恩恵かつと保嬰福よんたり
田中中てもかくたひいひのりあをれた父母乳母とも
よらとつはく合とあそく合とらる時よ他法く教
る事一とくしんいんあそくあそくたのひはさ
たらせたりもあつらうり著とたのひよそあも
のらうりもあつらうりあつらうりあつらうり
教まらよしんあつらうりあつらうりあつらうり
やのらうりあつらうりあつらうりあつらうり

るけりぬれおるる一々を必ひのていへるらういぬるま
教ひれハ邪念のなきまはし一くもぬるあははく
性とらりく不他法なるものなるまはし一くもぬるあははく
す

○礼記の内別は父子とく物とつゝの男ハ唯一女の念と
とるる男子ハをさすいさみやよししてふのこり
りいぬるも女子ハさまのちやよしとてさすよし
いさすりてさすれ事なり

○和俗は父子ハ破産を引け紙着并馬及車放
るる戲とさす一ひるる祝

○毎年正月は同民は男子ハ破産を引けとるる

ハさすり射さす紙着とあむらりて月申の國風

ハ武とさすとらりるの物さハ治さる世はも武とさすはる
意ちるべし 日本とけりて申花より東夷とけりて

夷乃字ハ大よ从び弓よ从ぬとけりて大弓とさるれハ
日本よりやどとさるりらハさす一くその國風武と

さすのとぬるりとさるべし一いまは父子とて破産を引けと
おとけぬるけりてけりてけりてバ執ももれ病れくさ
切健ぬるちけりてさするる

○續博物志とて去よ去乃附ハ紙着とけりて風はぬ
くをさする戲とさす一ひるるのひんさす一くをさす
るるさす一ひるるのひんさす一くをさす

と乃々るりところより紙巻と、日本らあおのい
 のりつれ申ふと、本邦よても多く、兒よは紙とら
 一ひつらりありけはの紙はその意とらとさる者
 ねと好と紙巻を乞うよそのちや五六人くらりあり
 手紙とららとを乞ふとせくつけと健なる男よ
 させくそと人の目とららとせしむる事ねと
 紙と費はのこよあらば其意を紙巻の紙と
 せしめんとせしむるそのうちとららとせしむる
 みづら風よひつらとせしむるをせしむる
 ことと紙とららとせしむるをせしむる
 ちらよはららとせしむるをせしむる

○毎年正月に女子ハ染草子まねとけりて松よて
 けりあじららつられとこきれりと名づくららと
 けりあじららつられとこきれりと名づくららと
 とりふとの敷山よありと他ありてそのもの
 うま山扼子れ形乃とららとせしむるをせしむる
 乃らきとせくしとせしむるをせしむる
 子よきのねとけりてららとせしむるをせしむる
 まはおとせしむるをせしむるをせしむる
 いとらとせしむるをせしむるをせしむる
 きをせしむるをせしむるをせしむる
 ひららとせしむるをせしむるをせしむる



小児科用証書卷六

いつれの代りもくド先ん事よや男がね子れ後考
と考るれさこしやめくくづこなり後子よ考り
くよ考るのちべきなり

○男れ兒あめち果れ比同一年比のれあなり之
びるびるかこりかる比さうく或ハ并さよ報
の載れこな武とるりり免ちりと健よよりれ
なりいつこも乳母或ハつこさささあ者くら
くけそしや印怪象とせぬぬるに遊び戯まこし
○女乃考二二考くくハ炊れとい子戯れとるれ
を産子遊と考くやめく果比乃中兒あり
今ら炊くやねとよる事考りさるく部残らる

多れ共浅英の徳子中兒ハ水と比考よもそあそ
りしきハその藝擧乃考り教く病ありとんこれ
ハ和倍ハ戯と考りやこしハけさるりや又たいん
と考る根由うく女ハ内と治りつるとはらまざり
よ切く飯炊すねと考りしつるつあるべ

五 男女乃中兒ハ教海れ徳

○兒子ハん考の訓ありあよあぬぐのくそのんまねと
りりものありそれか子孟子の母ハ交漢と考り
考の考あ墓乃りりよ考り孟軒乃り考り
の戯まこん考人試考り死人と考り考り
考り考り母ら考り孟考りあよあつとく考り

市街よ希少くハ新買とて物と商ひ或ハゆり賣と
 たりまねとれど鐵とあゆくりは母られまよとまよ
 まわらばとそけ交ハ字宮とて字同らり人とあゆり
 教らるる漢子希少ハ孟軒の鐵まよハ儒者れ
 と交りて細とけ一或ハ礼儀とあゆりてれまよと
 ちゆりて母らまよとあゆりてあれ子とゆりあつと
 て遠まけあよゆりまよとゆりまよと教らる
 一乃ゆりまよ

○孟子れいけなれ時果漢る家よ猪と殺てハ何まよ
 ハん居とまよのゆりハ母まよゆりて鐵まよはゆり
 たりんとゆりまよとのゆりまよはゆりまよゆり

とけるれ子とあゆりてハ何と教らるるまよと市よ
 ち・猪因とあゆりて孟軒よあゆりてちちまよゆりまよ
 てまよゆりまよまよゆりてまよゆりて大賢亞聖の徳
 とあゆりてゆりまよ

○司馬光云云宋本乃時胡桃と并ひゆりまよとあゆり
 あると胡桃の皮とゆりまよとあゆりて去るまよゆりまよ
 座とまよゆりまよゆりて一婢とまよゆりて去る
 侍湯はけけるまよの皮とまよゆりまよゆりて胡桃の皮は
 誰の子房とゆりまよゆりてまよゆりまよゆりて
 まよゆりまよゆりてまよゆりてまよとゆりまよゆり
 てゆりまよゆりてまよゆりまよゆりてゆりまよゆり

とてゆりてれりて 妾浴と申す事ありしと云々

○礼記内則子見子と家行しくハ教と云ふ者として
 教也一と云ふり教とハ一十而百倍と云ふ此教ハ
 里方とハ東西南北乃方角と教也云々なり七歳の時
 男子ハ男女を女のを必めしり男子ハ座せふ免は同一
 意ハ是を合し一ハ守男女別ある事と教らるなり 日本
 にも大石なる家の奥方一ハの付て此役人の事と云
 柔ゆハ男女とも健乃口れ此ハ出入と云ふ事なれ
 ども七歳ハ乃日月よりハ切やく持ててくし事ハ俗
 法と云ハ是申礼の礼子也といはる事と云ふべし
 ○礼記内則子見子と家行しくハ門たて出入と云ふ事

序よりて飲食らるる所ハ判らる事なり
 下りりてくましくハ人さ多と始て讓と教也と云何
 事なりともすハ事也と云ハ長者ハあつてハ云々の
 ○礼記内則子見子と家行しくハ日と云ふ事と教
 ことたり日と教也と云ハあつてハ初ハ十の又ハ十
 十二支の右と教らる事なり一十午と云ハ甲乙丙丁
 戊巳庚辛壬癸と云ハ信ハ多と云ふ事なり十二支
 子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥と云ハ信ハ多と云ふ
 事なり云々の事なり中子此信ハ多と云ふ事なり
 ○中夜の聖人ハ衆なりハ中夜ハ多と云ふ事なり

乃ちさうしうくくもるは時の徳法といふは
 ◎漢去乃のちかゝる人四書め雅小字近思錄ホるは
 句論もしんこいありを中論又かた敷とも漢法
 そのふくハ所徳はさういべし又そのあづうに
 賤子あつたのそのまゝ乃其泥物明はま
 ◎信とやういふまゝに信ハ 目出乃信樂といひ
 るがう少の淨瑠璃の敷ハ鄭聲といひ各別
 鄭部去ハ符節と合とらうとくはくおあ
 りたはと石易ハ音樂なればあつたあつた
 けきたはゆくりのぬぬとつたの猿ふま
 まりくハ士ハ舞ハ乃雅とあま君もあま
 といふ

傍華とも云ふと信ハ一ゆれたる事よ
 ち代乃知りよもなる敷あ一高ハけ
 ちのくつとけれはその敷織とつた
 る後よハけ藝と云立けく猿ふれ
 け方ハ舞敷の敷ハ信文ハ事
 小器用ヤうといふて敷ハその子
 小器用ヤうといふて敷ハその子
 ぬこころのけけはさる器用
 大くふくくもるは

◎諸君おへいこのあま小器用
 たりまれば百匹と定りて毎
 たり

立廻りよりくむるにばらと膝より進退なるを
 ぞしれ緒も物もあらずに春帯結よとけけり
 とやぬらゆらゆらと白紙とけきく長子なりく人前
 物くもきき指あらずひとけりあして御さきんとの
 他より使者へゆきとて他よりあつる使者とさつづ
 とも使女差者有れば役たよりりりさつりきと申死の
 人よりはるし使して君命と恥ぢりけりいんくも
 子よりこれいんくや日本ハ武とものりりりくお
 には五流とらふ所をれハ切とて人れ急物とらし
 ○茶終ハ本邦の信れらるる上下りてあきぶるを
 れハ一在一通りのおとるりたる事よといふ所と



地下がりれ風をそ移りて所へさ似像とありあり
 ○地下がりれ風六十集れはらり假よもよき人よ
 付會善きものとまらふものと嬉ひ下るぬの小者部屋よか
 け込小草履おとともなひかくきんぢつよ鬼むじ
 しくとこ象戯むち地りて降環橋中と引ひりけ
 白切あわく懐めく長田ダ舞後徳田兵場とあり
 西と西と誰舞う又云衆とここの地像をなも一わき
 武士の子とそ軍物後い好とも北條乃婿ともよぬぞ
 きい合平ハ奇変の身利田乃義盛はあひ時修者の
 冷麻山で強盗とあられをればさうほおれらるよと
 も頼政の鶴と射られと八尾が橋でれりありき春れ

くくわをそりまらとあまはらるりよ世のとりもつうわ
 半は跡先ようころりかー物とくとも序云どりよ
 く宮乃宰お屋とさんさうとれとらひ形勢とる
 おやととえ人れ顔けらくらんさくらんとの脈のう
 けとらよやくうらんとらふ人乃あうはとらうはとらひ物
 すこととすぬとらふとまい人まきくすぬとらひぬい
 とらひとぬまれをらうとらう家とらひすこととらと教れ
 きねて徳とあーゆり時光源氏とあう源氏とらひ
 すぬの浦うけてとらふあすとすぬ浦うけてとらふ
 それとあふれはすぬとらふこととらとらふすこととら
 すぬとらくとあう源氏をせんこうなれらるらうら

子れ申とこれ地下のりの内信なりか極よそら
しり言ハ傍若無人れ者ありいとすまてあるりこれ
とそらく教入まといふ者よあるそのまておけいす
ぬ者よありておの用よきぬ者なり是らなその神
ハ父母れを著よいれくきと始息とつてむれらる
あらりけきハ重くも人その子の重きなりとある事
その苗れ頑なりすとあるり移いと戒めぬると人
父母より者つねよけ信と膺よつておのひかり
その子と教といひなりその教れおの重きなり諸
よ詳るりいま客よあるは重なりけいしと婦
く思まわつるよ後と後とのなりし

正徳第^四甲^午歳五月吉日

京寺町押小路下町

野田治兵衛

書肆

秋田屋甚兵衛 梓

江戸目本橋南一丁目

梅村弥右衛門

大坂心齋橋筋

秋田屋市兵衛 行

Kitasato Memorial Medical Library